

平成 21 年度第 6 回 経営学教育 FD/IT 活用研究委員会議事録

- I. 日時：2010 年 2 月 16 日(火)14:00-16:00
- II. 会場：私立大学情報教育協会事務局 会議室
- III. 出席者：大塚晴之委員長、岩井千明委員、佐藤修委員、大野富彦委員、井端事務局長、森下主幹、恩田係員

1. 議事概要

委員長より、経営学の情報教育について、前回、到達目標と到達度まで議論し、本委員会では、宿題となっていた、教育内容・教育方法、到達度確認の測定方法を検討する旨の説明があった。

2. 教育内容・教育方法、到達度確認の測定方法について検討した。

- (1)委員より資料①、佐藤委員より資料②の説明があった。
- (2)事務局より、以下の問題提起がなされた。到達目標と到達度のとらえ方が狭いのではないか。「経営学教育における学士力」には社会的責任の重要性を入れているが、その点が到達目標および到達度にはふれられていない。情報とどう向かい合うかという、情報の取り扱いについて議論・整理しないといけないのではないか。

3. 到達目標と到達度を見直し、それに対応した教育内容・教育方法および到達度確認の測定方法を検討した。

[到達目標 1 について]

- (1)委員長：到達度①を到達目標 1 にして、到達度を、①倫理、②ツールの活用、③経営と情報の仕組みの基本的な知識という 3 つにわけて整理するのはどうか。
- (2)事務局：倫理は法律以前の問題である。経営情報のもつ社会性は大きいので、その点を理解し、情報操作等をせずに扱うことができることが大切である。
- (3)委員：情報を適切に活用するという意味か。
- (4)委員：①倫理と③経営と情報の仕組みの基本的な知識は、意味がひろいというか前提的内容である。
- (5)事務局：③は「経営学教育における学士力」に入っている。到達目標以下では、学士力を実現するために、どの部分について情報通信技術を活用していくかということではないか。
- (6)委員：③の内容は①に含まれるのではないか。
- (7)①倫理は経営情報の社会性とし、それと②ツールの活用という 2 点から到達度、教育内容・教育方法、到達度確認の測定方法を整理することとし、到達目標 1 に関する最終案を以下のとおりとした。

到達目標 1

情報通信技術を活用して、経営に関わる情報を適切に収集・整理し、表現・発信できる。

到達度

- ①経営情報の社会性を理解し、情報を適切に取り扱うことができる。

②情報検索やソフトウェアの活用など基本的な情報処理能力を身につけている。

教育内容・教育方法

①は、講義と事例研究によって、組織における情報システムの役割、情報セキュリティ、情報倫理、情報関連法規などについて理解させる。

②は、Web 検索や資料検索等によって得たデータをもとに、基本的なソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)を用いてレポートやプレゼンテーションをさせる。

到達度確認の測定方法

①は、小テスト、レポートなどにより確認する。

②は、プレゼンテーション、レポートなどにより確認する。

[到達目標 2 について]

(8)到達目標 2 は、分析と意思決定という点を踏まえて検討する。

(9)組織の行動を分析し、意思決定を行うための情報通信技術を活用できる、としてはどうか。

(10)「活用できる」というのは到達目標として高すぎることから、「理解している」とする。

(11)到達度は、意思決定のモデリングやシミュレーション、経営情報システムを活かした事例の 2 点にわけて整理し、到達目標 2 に関する最終案を以下のとおりとした。

到達目標 2

企業をはじめとする組織の行動を分析し、意思決定を行うための情報通信技術を理解している。

到達度

①意思決定のモデル化、シミュレーションの方法を理解している。

②経営情報システムによる複数の成功、失敗事例を理解している。

教育内容・教育方法

①は、講義、演習、ビジネスゲームなどにより、要件整理・要件分析・モデル記述のフローを示し、理解させる。さらに、模擬データによる簡単なシミュレーションを体験させる。

②は、ケーススタディ方式で事例を紹介し、因果関係を討議させる。

到達度確認の測定方法

①は、小テスト、プレゼンテーションなどにより確認する。

②は、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより確認する。

4. 今後のスケジュールについて

(1)事務局より、来年度にパブリックコメントを求めるとの連絡を受けて、その結果を受けて次回（来年度）の委員会日程を調整するとの説明があった。

経営学の情報教育

到達目標 1

情報通信技術を活用して、経営に関わる情報を適切に収集・整理し、表現・発信できる。

到達度

- ① 経営情報の社会性を理解し、情報を適切に取り扱うことができる。
- ② 情報検索やソフトウェアの活用など基本的な情報処理能力を身につけている。

教育内容・教育方法

- ①は、講義と事例研究によって、組織における情報システムの役割、情報セキュリティ、情報倫理、情報関連法規などについて理解させる。
- ②は、Web 検索や資料検索等によって得たデータをもとに、基本的なソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)を用いてレポートやプレゼンテーションをさせる。

到達度確認の測定手段

- ①は、小テスト、レポートなどにより確認する。
- ②は、プレゼンテーション、レポートなどにより確認する。

到達目標 2

企業をはじめとする組織の行動を分析し、意思決定を行うための情報通信技術を理解している。

到達度

- ① 意思決定のモデル化、シミュレーションの方法を理解している。
- ② 経営情報システムによる複数の成功、失敗事例を理解している。

教育内容・教育方法

- ①は、講義、演習、ビジネスゲームなどにより、要件整理・要件分析・モデル記述のフローを示し、理解させる。さらに、模擬データによる簡単なシミュレーションを体験させる。
- ②は、ケーススタディ方式で事例を紹介し、因果関係を討議させる。

到達度確認の測定手段

- ①は、小テスト、プレゼンテーションなどにより確認する。
- ②は、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより確認する。